

平成24年度原子力災害影響調査等事業(放射線の健康影響に係る研究調査事業)

研究課題名：放射線の非がん影響の解明

1)「放射線による循環器障害に関する分子機構の解明」

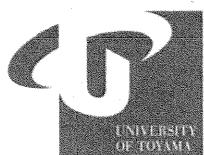
富山大学大学院医学薬学研究部 放射線基礎医学講座 近藤 隆

2)「造血幹細胞の放射線感受性関与遺伝子の探索」

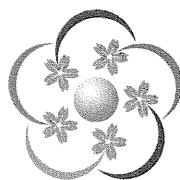
弘前大学大学院保健学研究科 放射線生命科学分野 柏倉 幾郎

3)「放射線感受性に関わるミトコンドリア機能修飾の役割」

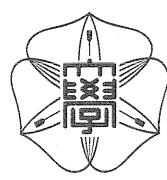
北海道大学大学院獣医学研究科 放射線学教室 稲波 修



富山大学



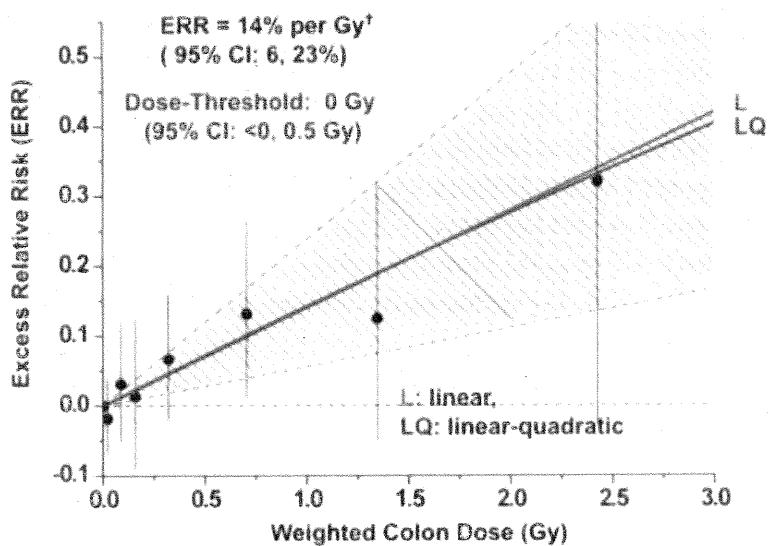
弘前大学



北海道大学

Radiation effects on heart disease mortality

Heart Disease Mortality



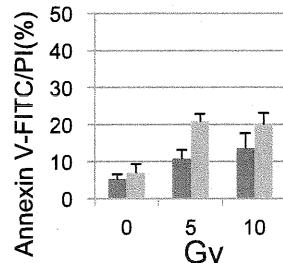
(Shimizu et al, Br Med J, 2010)

† Adjusted for gender, age at exposure, attained age, diabetes

Q. Mechanisms of low-to-moderate dose CVD effects. By R. Shore, RERF

Annexin V-FITC/PI FCM Apoptosis Assay

HUVEC
**(Human Umbilical
 Vein Endothelial
 Cells)**



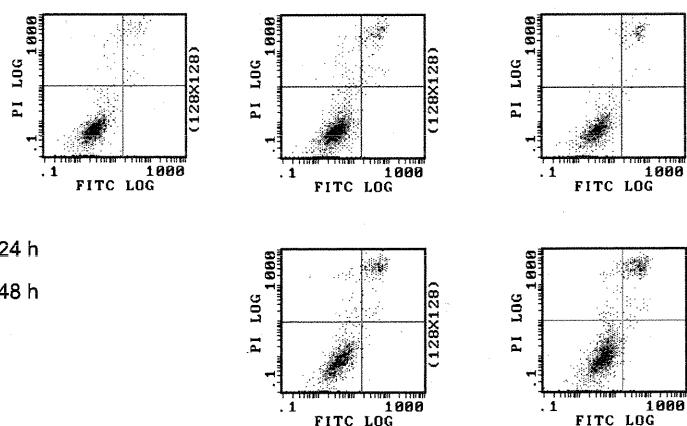
Control

5 Gy

10 Gy

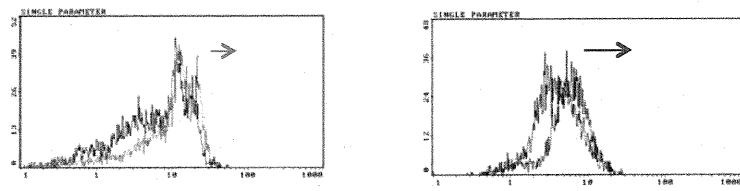
24 h

48 h

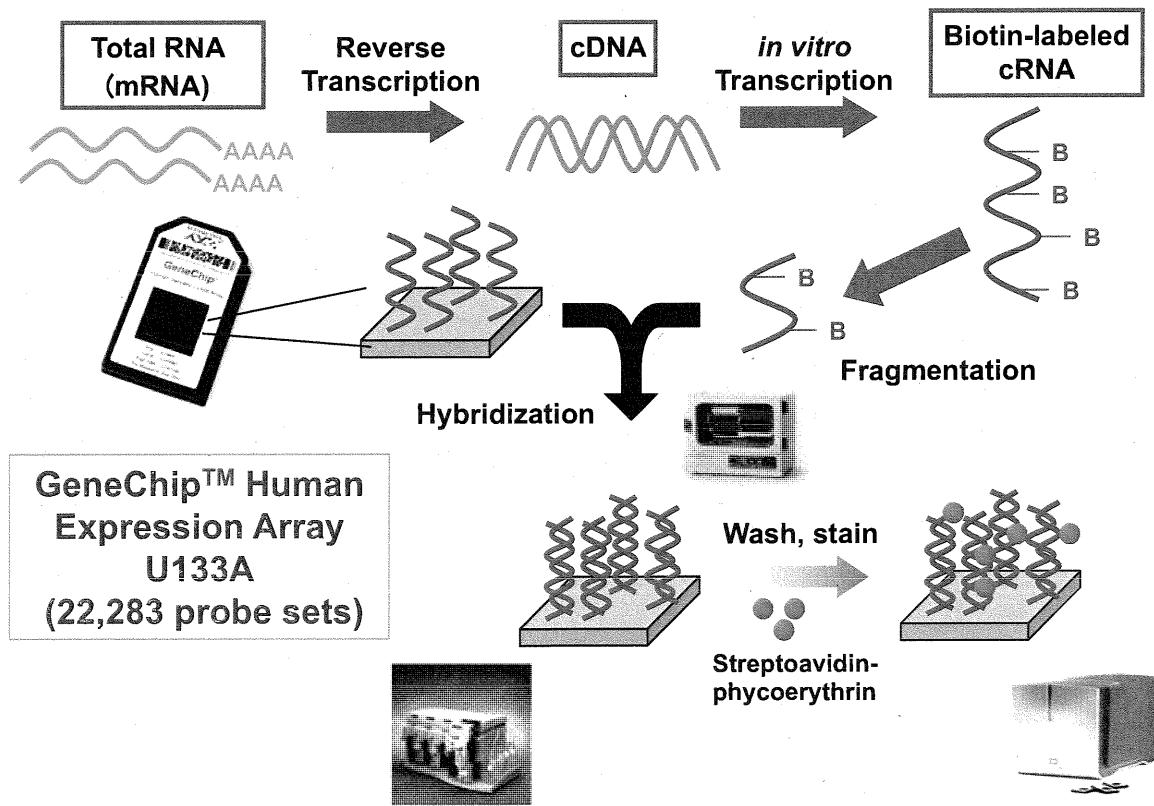


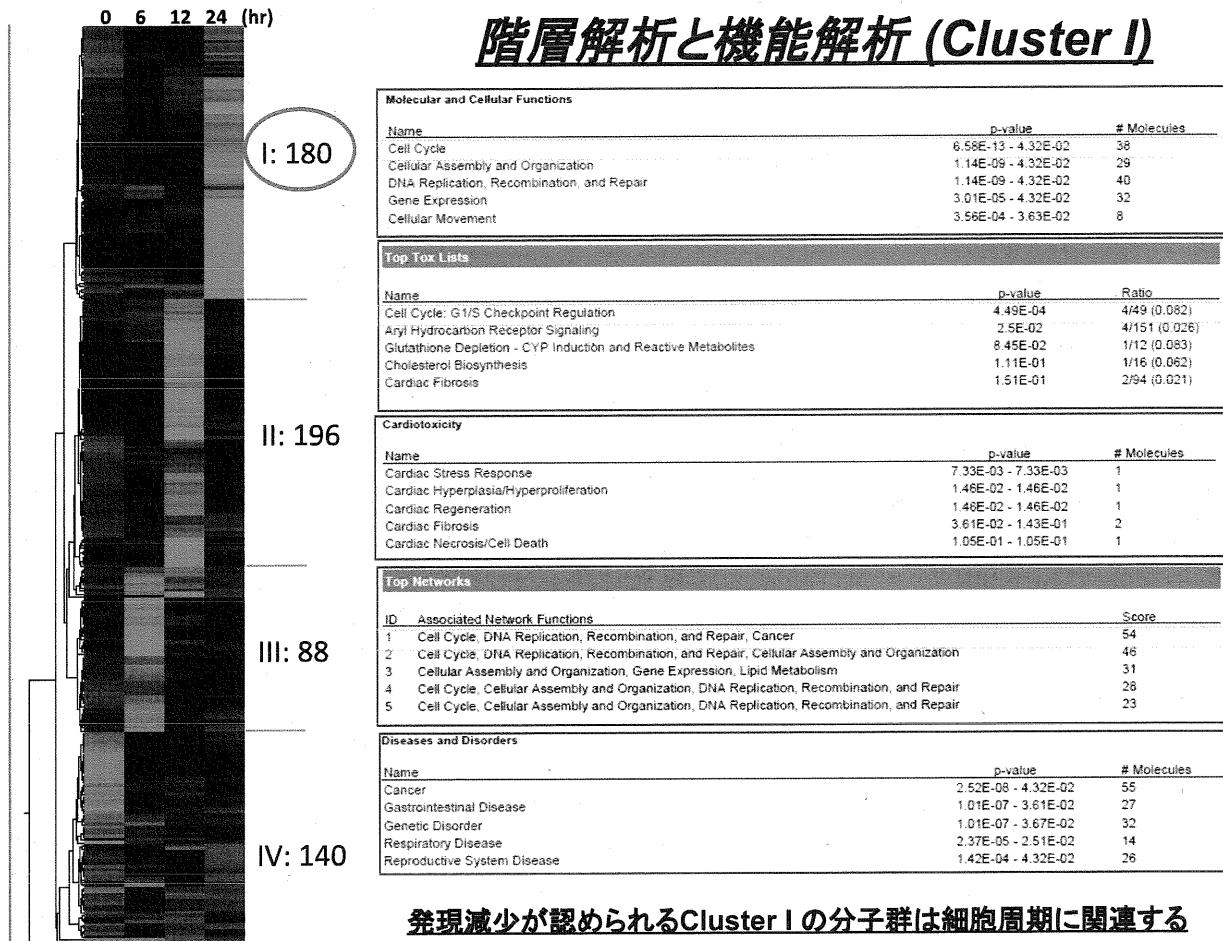
ROS Detection by HE (O_2^-) and HPF (OH^- , $ONOO^-$)

Control vs 10 Gy, 12 h HE HPF



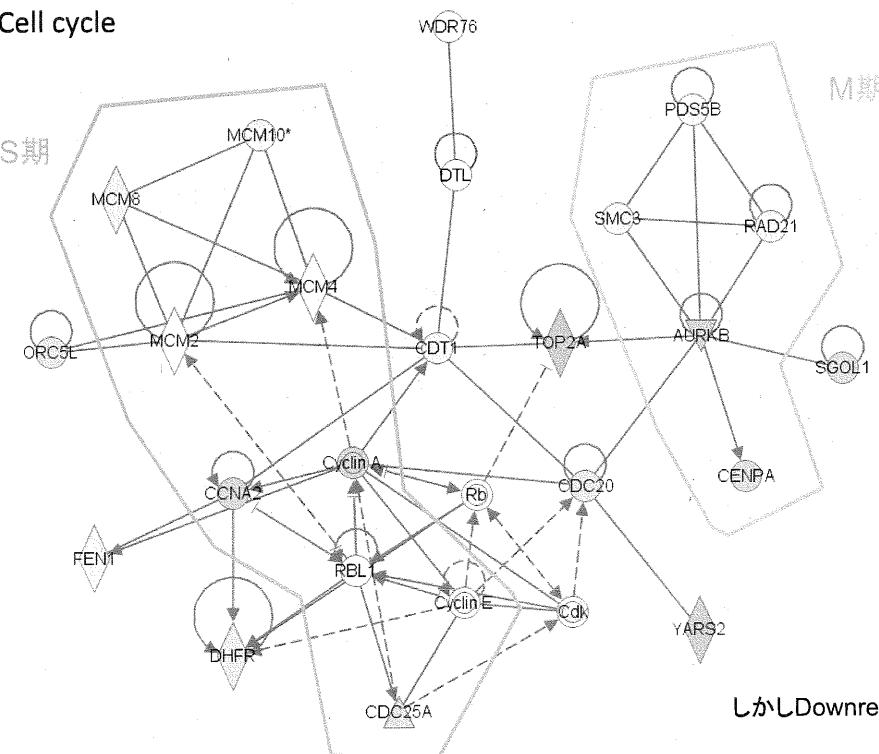
Experimental Procedures for Gene Expression Analysis





発現減少した遺伝子群におけるネットワーク解析

Cluster I : Cell cycle



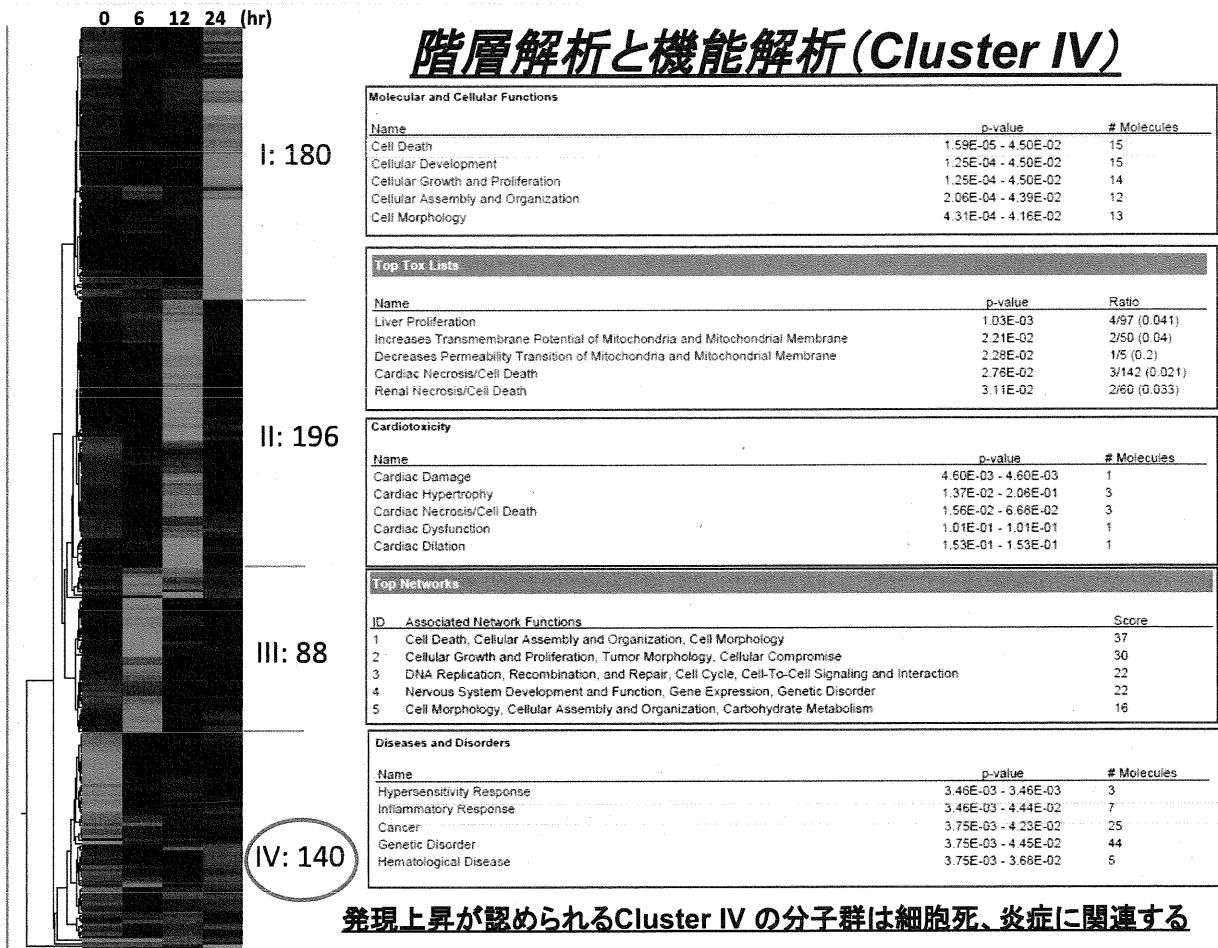
しかしDownregulationは

○結果

×原因

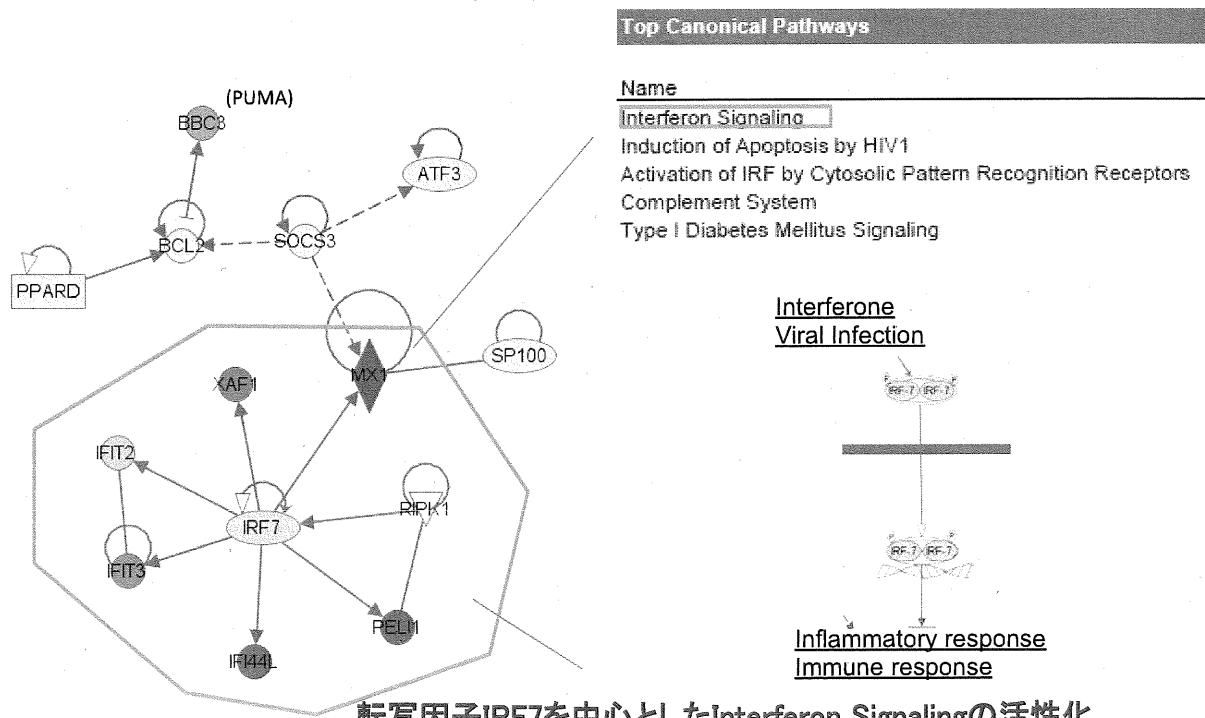
放射線照射によるG1期、G2期チェックポイントの活性化の結果、
S期およびM期に発現する分子の減少が見られたと推測される

→ Uptregulationに関する検討 要

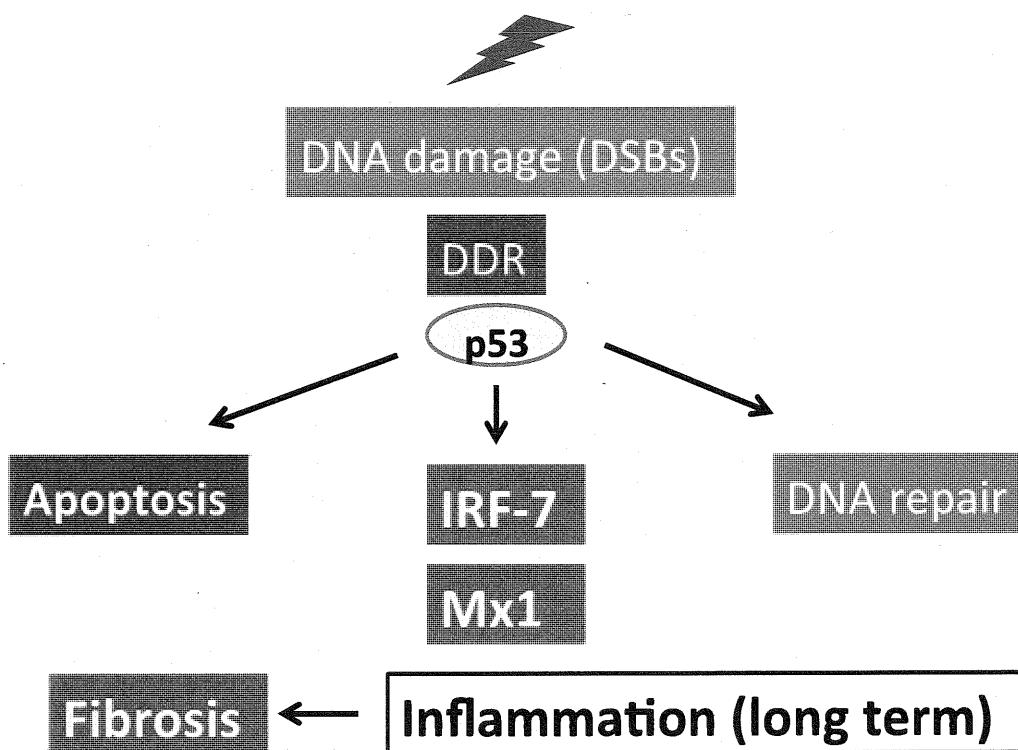


発現上昇した遺伝子群におけるネットワーク解析

Cluster IV : Cell death & Inflammatory response



Tentative Mechanism



IRF-7:interferon regulatory factor-7, Mx1:Interferon-induced GTP-binding protein Mx1

総括・展望

・網羅的遺伝子解析とqPCR法を用いることで、2 Gy照射時にHUVEC細胞においてp53>>>IRF7 >>>Mx1を中心とした炎症応答が活性化することが判明した。



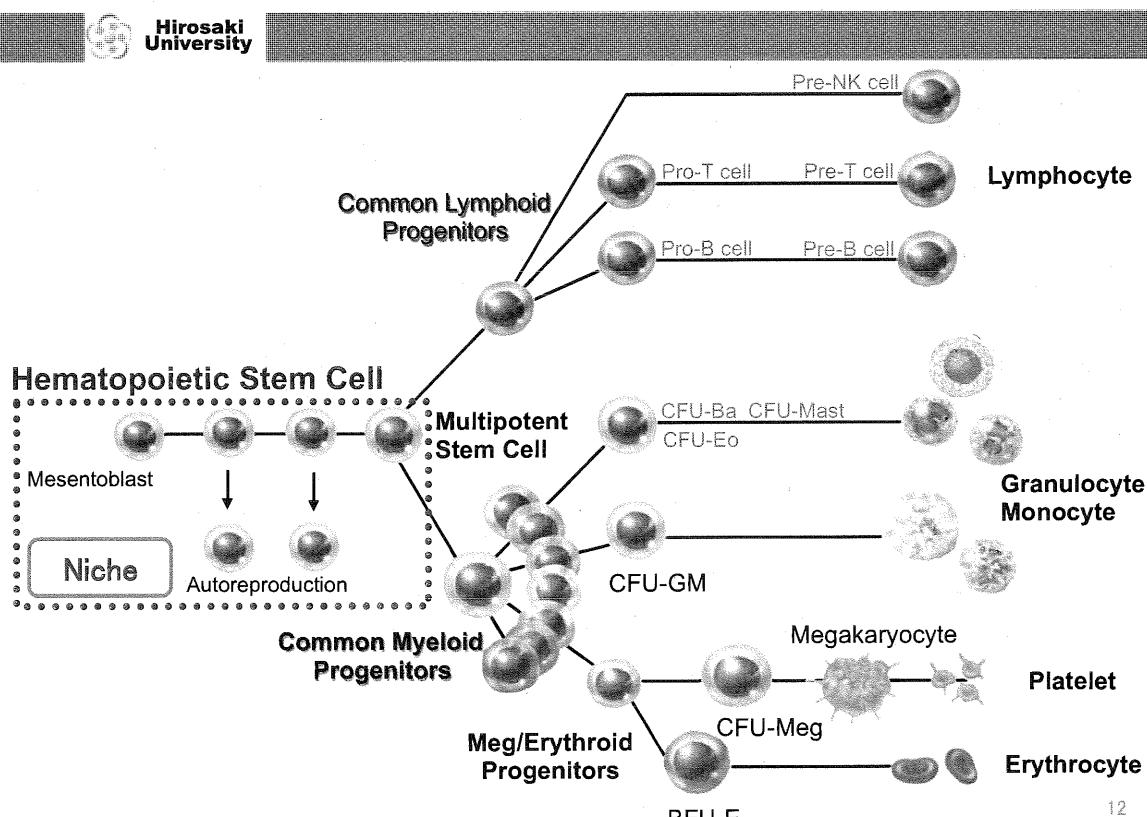
・低線量照射時(0.5 or 1 Gy)に,IRF7やその下流の分子であるMx1が発現上昇するか、また、正常ヒト冠状動脈内皮細胞を用いた場合の影響について検討する。

・今後、より低線量率で長時間照射した場合に発現変化する遺伝子を検討することで、低線量率放射線の血管内皮細胞における影響を分子水準で検討する。

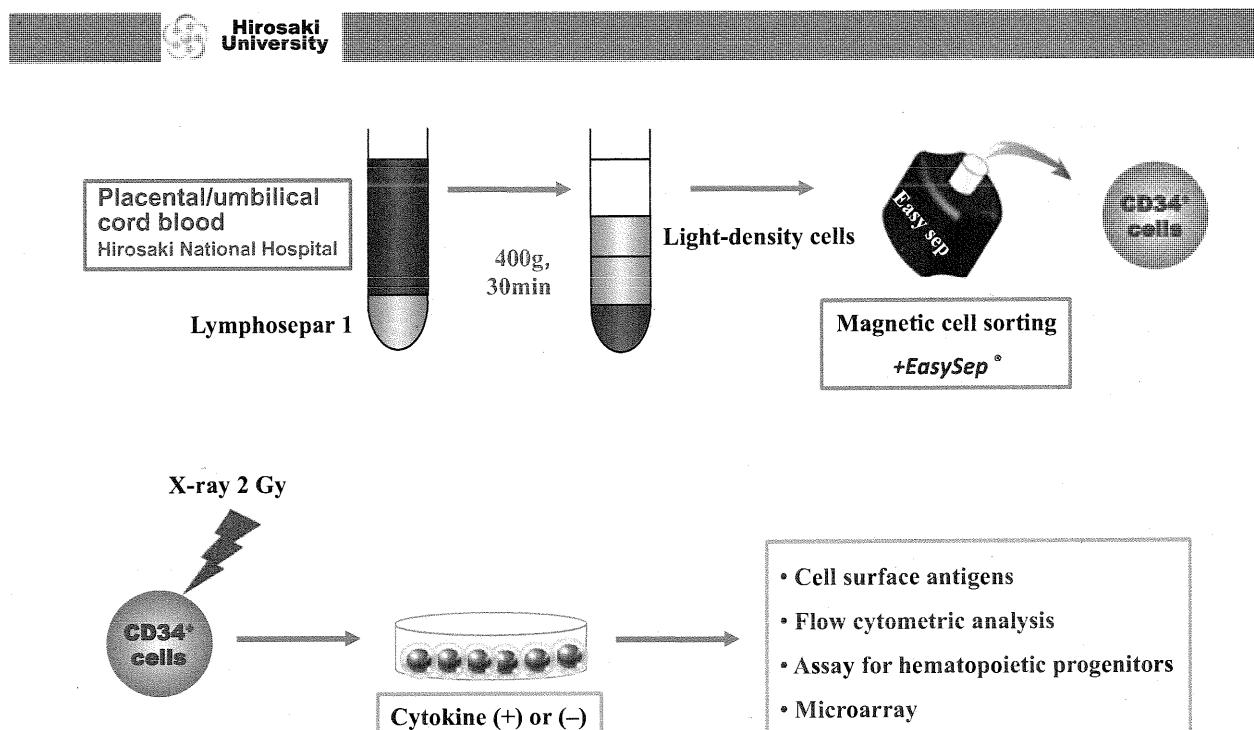


放射線に対して感受性が高い造血システムを評価モデルとして、標的となるヒト造血幹細胞の発現因子及び遺伝的特徴を解明し、これらが個体差感受性とどう関わっているか、個々の感受性を左右する因子は何であるかを解明し、最終的には放射線感受性の予測診断や新たな治療方法への応用へと繋げる。

造血幹細胞の自己複製と分化

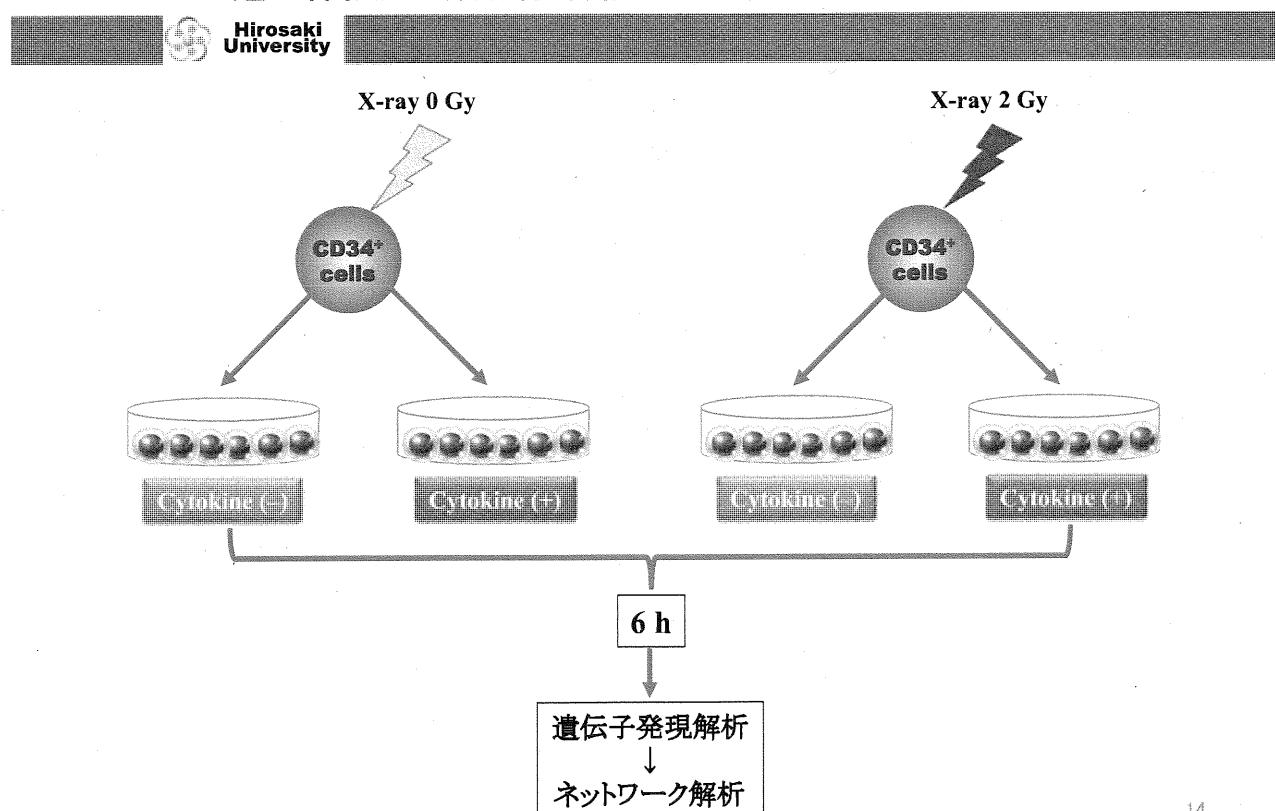


ヒト造血幹細胞の分離と実験概要



13

ヒト造血幹細胞の放射線曝露に伴う遺伝子変化の実験概要

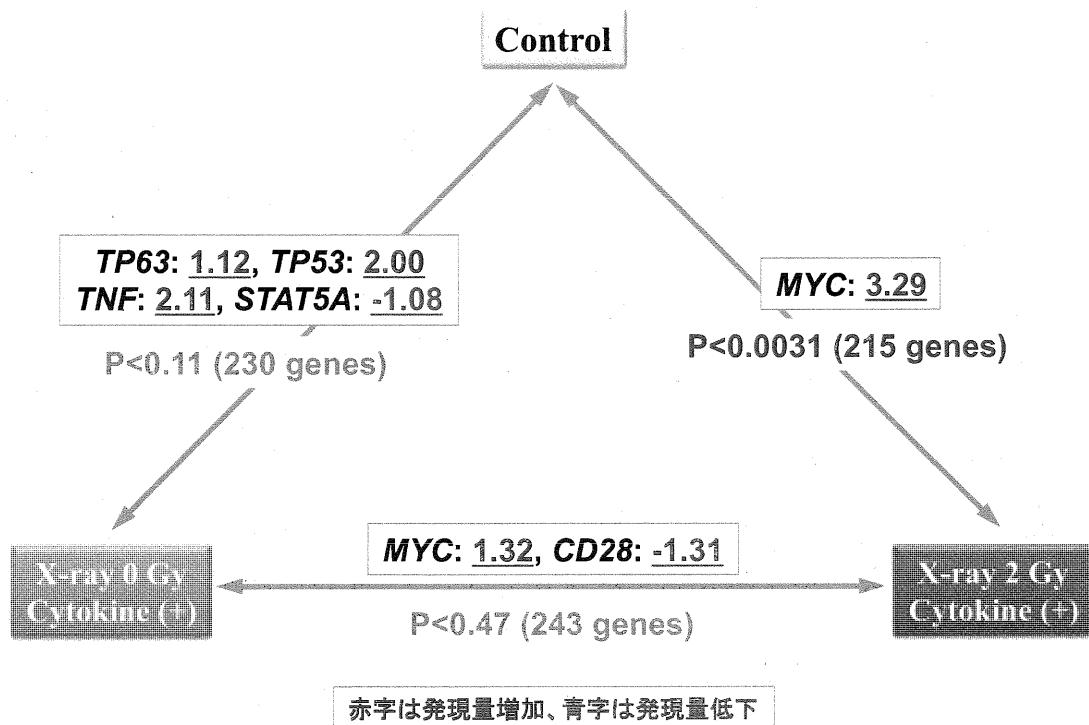


14

ヒト造血幹細胞の放射線曝露に伴う遺伝子変化の相互比較



Hirosaki
University

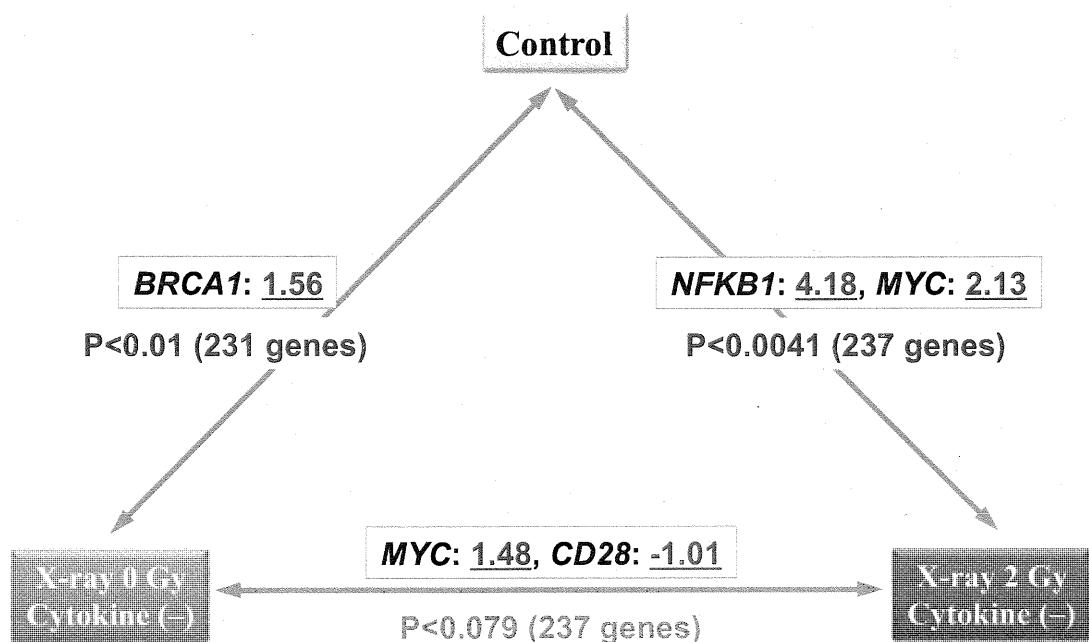


15

ヒト造血幹細胞の放射線曝露に伴う遺伝子変化の相互比較



Hirosaki
University



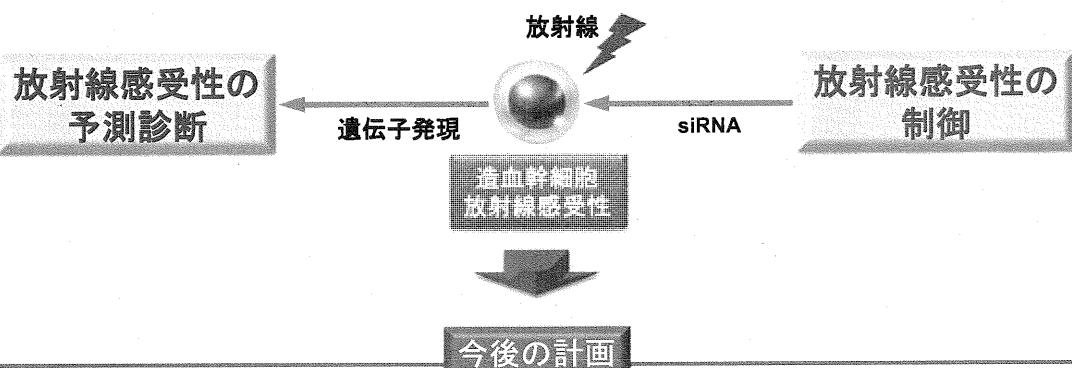
16

まとめ



Hirosaki
University

1. 2 Gy照射ヒト造血幹細胞ではおよそ360遺伝子に変動(非照射細胞比>2.0)が見られた。
2. 2 Gy照射ヒト造血幹細胞で最も変動した遺伝子はp21であった。
3. 変動遺伝子のネットワーク解析から、c-Mycが大きな役割を担っている可能性が示唆された。



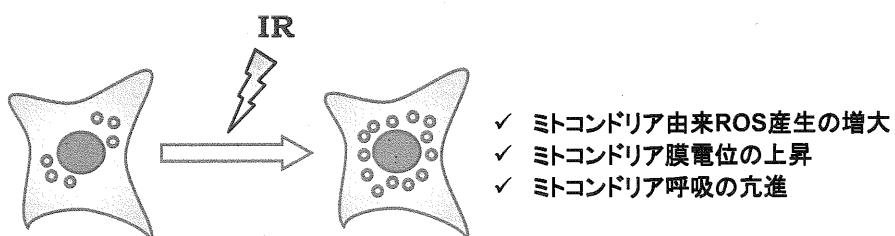
1. 造血幹細胞発現抗原、遺伝子と放射線感受性との関連性を明らかにする。
2. 短鎖干渉性RNAにより、個体の放射線感受性を制御する。
3. 最終的には、放射線感受性の予測診断法へ繋げる。

「放射線感受性に関するミトコンドリア機能修飾の役割」

北海道大学 稲波 修

目的

- 放射線照射による『ミトコンドリア由来ROSの増加とそれに伴うミトコンドリア機能変化』を引き起こすメカニズムの解明。



そこで本研究では、特にミトコンドリア含量の変化に着目し、

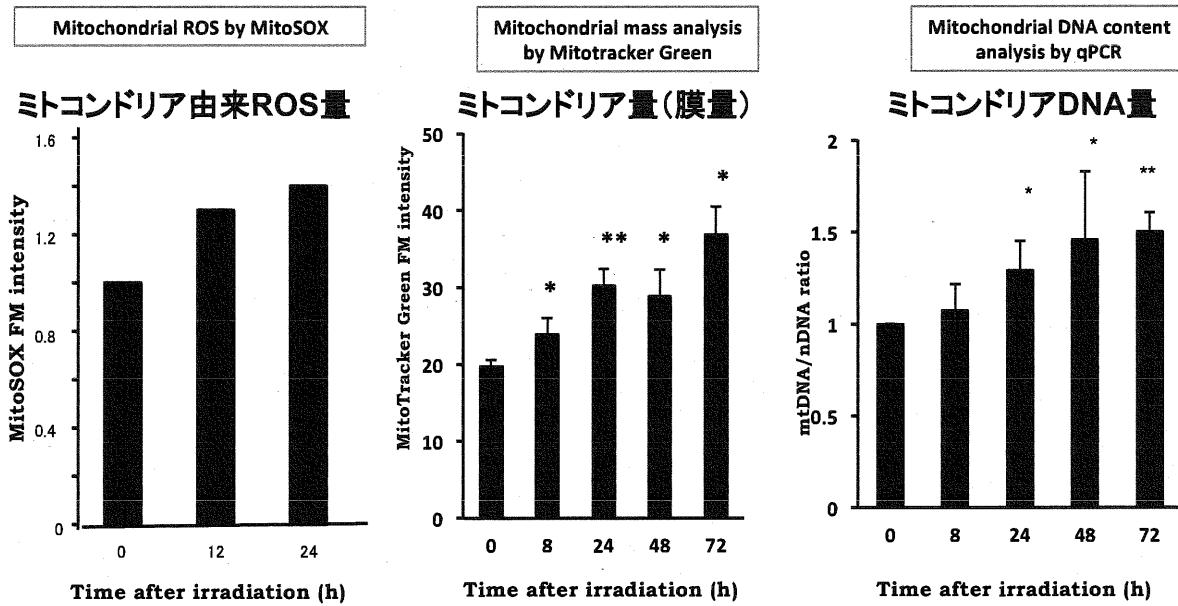
- ① 放射線照射後に起こる細胞内ミトコンドリア含量の変化の詳細な解析を行い、
- ② これを誘導するメカニズムを検討する

ことを目的に研究を行った。

X線照射後の細胞内ミトコンドリアの変化

ヒト胎児線維芽細胞 NIH3T3 cells

X-rays, 10 Gy

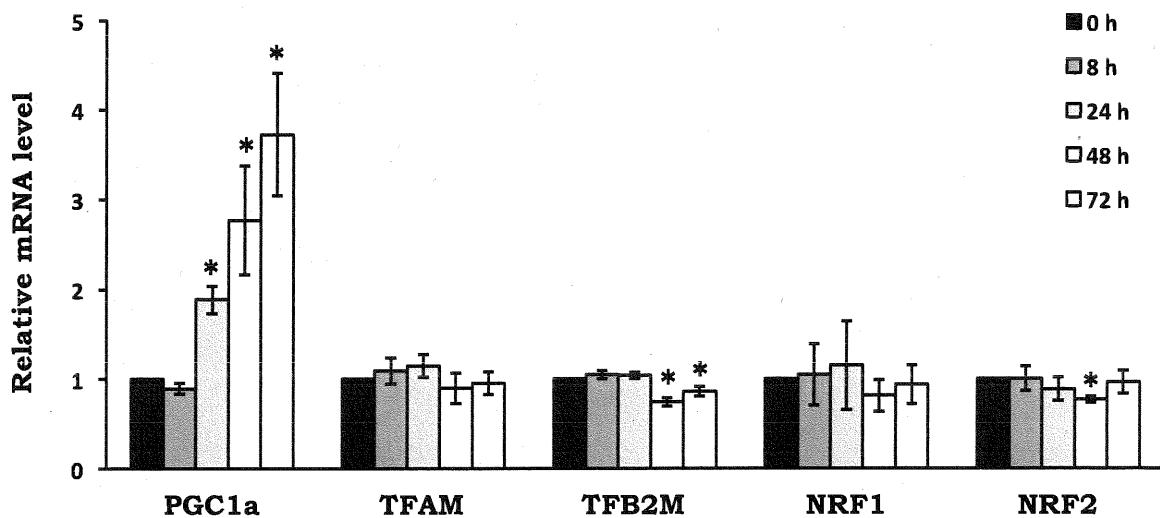


* : p<0.05; ** : p<0.01 (vs 0 h)

X線照射後のミトコンドリア生合成関連遺伝子発現の変化

NIH3T3 cells
X-rays, 10 Gy

mRNA level analysis by qPCR

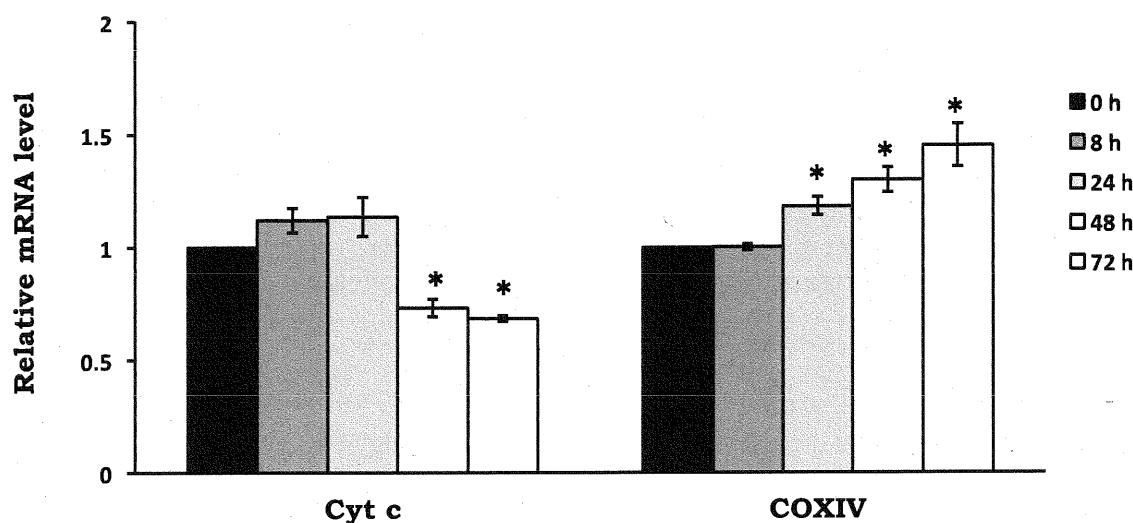


* : p<0.05 (vs 0 h)

X線照射後の電子伝達系遺伝子の発現変化

NIH3T3 cells
X-rays, 10 Gy

mRNA level analysis by qPCR

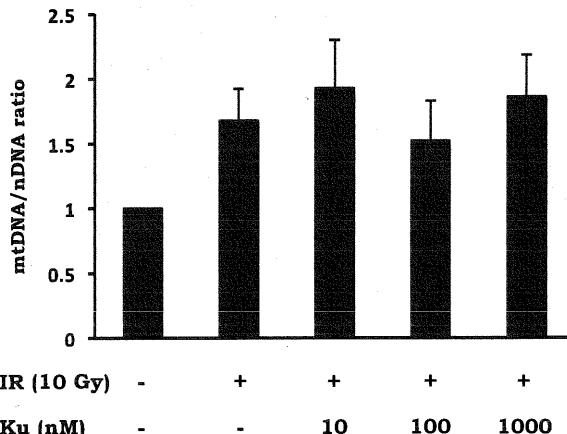


X線照射による細胞内ミトコンドリア含量の変化に対する各種薬剤の効果

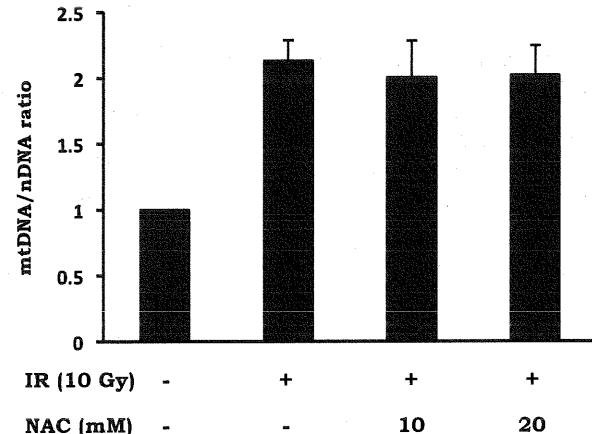
Mitochondrial DNA content analysis by qPCR

NIH3T3 cells

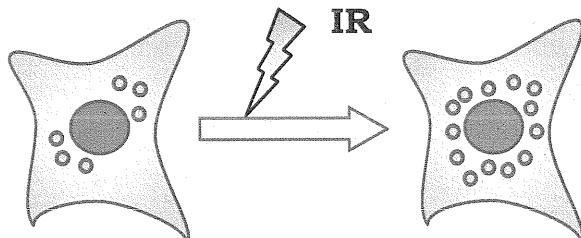
Ku60019 (ATM inhibitor)



N-acetylcysteine (antioxidant)



まとめ



現象として今回、明らかになったこと

- ↑ ミトコンドリアの量の増加
Mitochondrial mass
- ↑ ミトコンドリアDNAの増加
Mitochondrial DNA
- ↑ ミトコンドリアからの活性酸素增加
ROS from mitochondria

メカニズムに関連して現在までに明らかになったこと

- ✗ ミトコンドリアの正常な生合成によるミトコンドリア量の増加によるものでは無い
(通常、ミトコンドリア量の増大で活性化するPGC1a-NRF-TFAM/TFBM axisの関与が無い)
- ✗ DNA二重鎖切断によるシグナル分子(ATM)により誘引されたものではない
- ✗ 細胞内の活性酸素(ROS)が上昇が引き金で起きる現象では無い

今後の検討課題

- ? Fission/fusionのサイクルと細胞周期サイクルとのずれが起きているか？
- ? Mitophagyが一過性に放射線によって抑制されている可能性？
- ? 細胞内のROSが放射線感受性にどの様に係わっているか？
- ? 炎症関連細胞の低線量照射でのROS生成とサイトカイン産生・炎症応答は関連するか？

放射線による二次的なROS産生亢進とその非がん生物影響との関連性

